

M&A専門誌

Mergers & Acquisitions
Research Report

MARR マール

2008 February 2月号

発行人 高橋 豊
Yutaka Takahashi

編集長 川端 久雄
Hisao Kawabata

制作進行 加藤 順子
Junko Kato

表紙写真 十文字 美信
Bishin Jumonji

アート
ディレクション 石崎 路浩
Michihiro Ishizaki

デザイン 斎藤 圭太
Keita Saito

本文写真 朝日 良一
Ryoichi Asahi
福本 敏雄
Toshio Fukumoto

印刷 三松堂印刷株式会社

発行所：株式会社レコフ

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-1-1

麹町ダイヤモンドビル

TEL.03-3221-4942

2008年2月1日発行 通巻160号

雑誌18321-02

定価4,725円 本体4,500円

 RECOF

編集室から

BOOK

『市場の真実—「見えざる手」の謎を解く』

ジョン・ケイ著 佐和隆光監訳、佐々木勉訳

中央経済社

2800円(本体)



この地球には繁栄した国と貧困な国がある。その違いはどこから来るのか。著者は市場経済が発展しているかどうかにあるとする。ロシアも中国も市場経済の仲間入りをし、グローバル経済化に拍車がかかる。では、市場経済の強さの真実はどこにあるのか。

この謎を解くため、著者は「教訓を踏まえた多元主義」という概念を提示する。定義はこうだ。「小刻みに実験され、しばしば見直され、また成功をフォローアップし、失敗しても非難されないという構造の中で、組織や経済システムが意思決定を進めていく」ことをいう。集権的でなく多元的な意思決定の仕組みである。

このシステムに欠かせないのが、市場の機能であり、これは自然発生的な秩序である。スミスが言った「見えざる手」は、デザインのない秩序を表現する最も有名な言葉である。市場から絶えず情報をフィードバックする。競争により強いものが残る。適者生存である。こうして新製品、新技術のイノベーションが生まれ、豊かになる。

その成功例として、パソコン産業の誕生のプロセスを紹介している。数カ月前にこの業界がどのように進展するかを見通せる者はいなかった。主導権争いを演じた者の大多数が失敗した。ビル・ゲイツらの名は残るが、真の「立役者」などはいなかったという。

教訓を踏まえた多元主義の対極にあるのが、共産主義体制だった。中央で需要を予測して生産の計画を立て、指示を全国に下す。時の権力者の「天の声」で意思決定が行われる。ハイエクがこの計画経済に潜む情報収集の問題点を見抜き、失敗をいち早く予言したが、現実にそうだった。

今や市場経済が世界を席卷した形だが、著者は、中でも米国経済のモデルに対しては厳しい目を向ける。米国型モデルは次の4つの特徴をもつ。強欲が人間の経済活動の動機であることを是認する（利己心のルール）。市場は自由に機能させるべきで、規制は最小限に抑える（市場原理主義）。政府の役割は契約の履行と私的所有権の保護に限定する（最小規模の政府）。課税は、政府がこれら基本的機能を果たすため必要だが、税率は低く抑えるべきで、税制は所得と富の再分配を求めるものであってはならない（低率課税）。

このモデルの中では、富が人間の価値を計る物差しとなり、人生で挑戦すべきゲームになり、それに参加しなければ二流とされる社会が形成される。この理論的バックボーンになっているのがフリードマンに代表されるシカゴ学派だとする。

これに対し、著者は人間の経済的動機は複雑で、人間には協力、協調し合う本能や連帯感があること、利己的行動より適応的行動により経済が発展することなどをいくつもの例をあげながら説明している。市場経済を肯定しながらも米国型礼賛でないとするところに共感を覚える。著者は、オックスフォード教授などを歴任した経済学者である。サミュエルソン以降の新古典派経済学の研究成果が盛り込まれている。現代経済学の発展の過程、経済学の効用と限界、経済学の将来についても知ることができる。（青）

編集後記

私には文章の師がいます。30代に出会いました。当時、50代の師は毎日、新聞の一面のコラムを書いていた。1年間、補佐したのです。資料を整理したり、取材をしたり……。書くのが苦手な私は師の書き終えた文章をお手本に写す修業を続けました。今、こうして文を生業としているのも師のおかげです。

77歳になる師から『文章のみがき方』という新著をいただきました。正直に書く。文章の贅肉を落とす。美化、自慢、針小棒大などを捨てる。自分の文章ににじみでている邪心を見つめる。いい文章を書くための道は果てしないが、地道に歩きつづけるしかない。こんな言葉がちりばめられています。

読み終わり、「人生のみがき方」を教わったような気がしました。文は人なり。今は文章と人生の師です。良き師をもつことの幸せを実感しました。と書き終えて、また自慢話ではと自問自答しています。（開）

本誌の記事およびデータの著作権は原則として株式会社レコフに帰属します。いかなる目的であれ当社に無断で本誌記事の複製、引用、転載等を行うことを禁じます。また、本誌記事の情報は、当社が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、完全性が保証されているものではありません。当社は本誌記事に起因して被った損害については、その内容如何にかかわらず一切の責任を負いません。乱丁・落丁の場合はお取り替えいたします。マール室（03-3221-4942）までご連絡ください。